

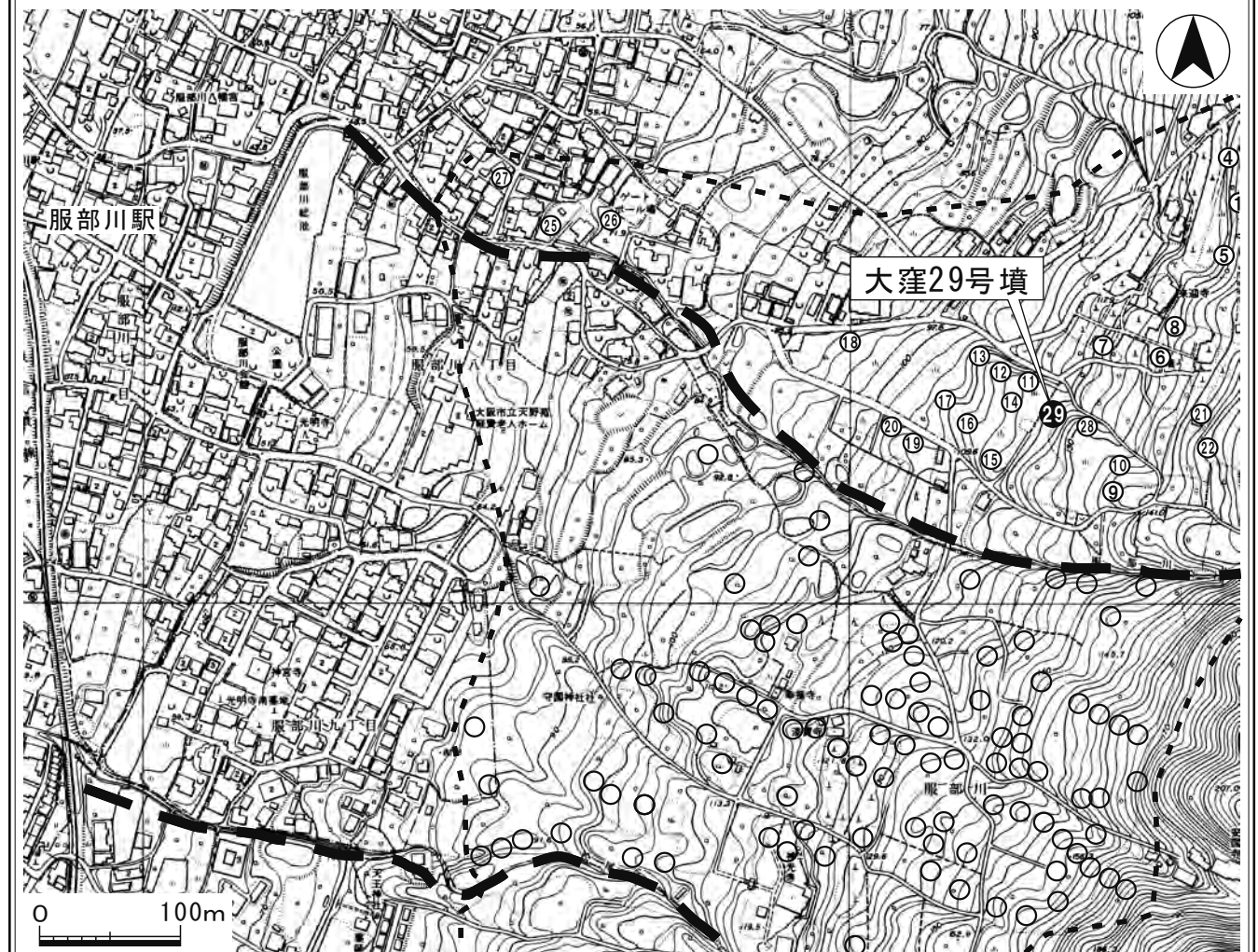
# おおくぼ 大窪29号墳の現地説明会資料

## 1) はじめに

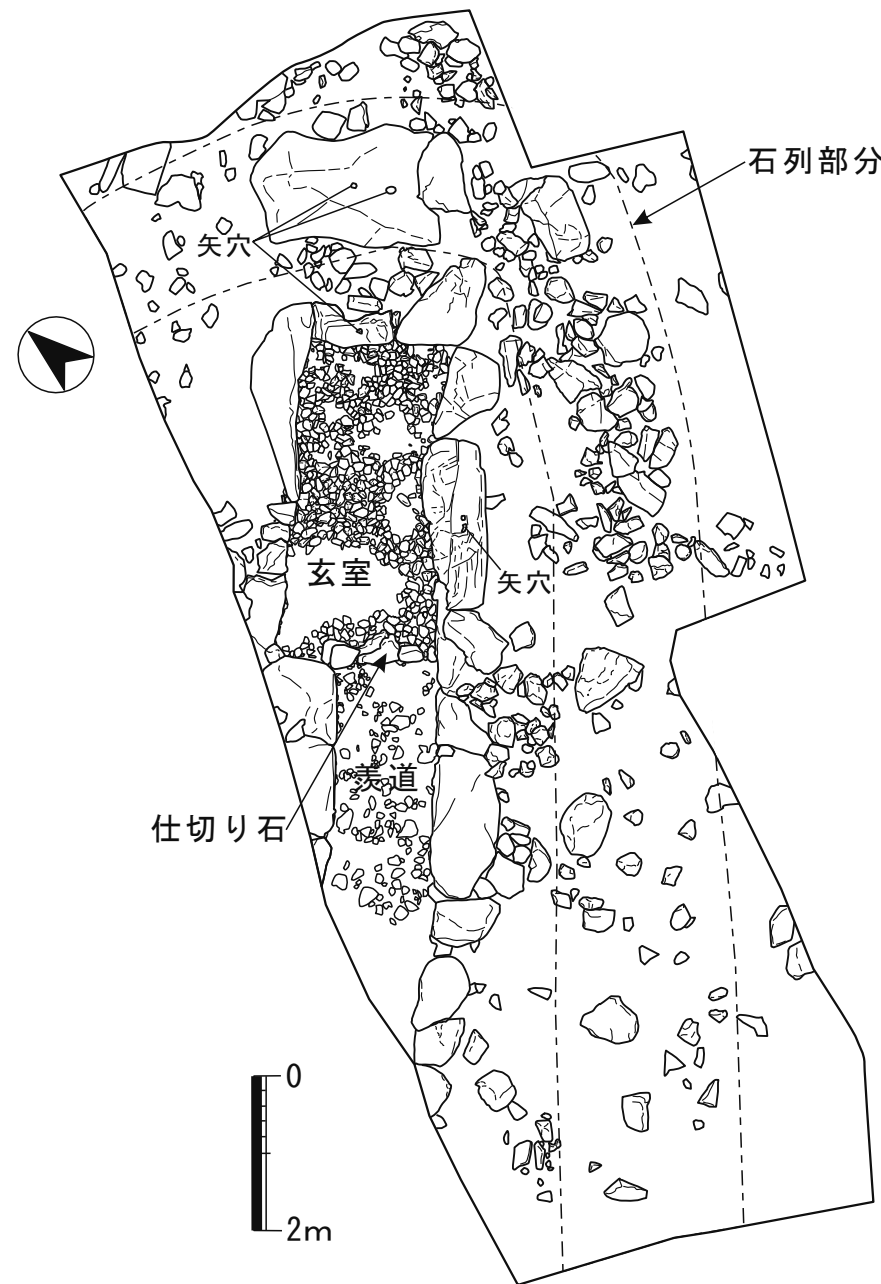
大阪府八尾市神立・山畑・大窪・服部川に所在する高安古墳群の発掘調査で、古墳時代後期後半(6世紀後半)に築造された古墳の横穴式石室が検出されました。この古墳は、大窪29号墳と名づけられました。大窪29号墳は、府営農道整備事業に伴い、平成17年8月下旬から調査しているもので、地下約1.5m前後で検出されました。

高安古墳群は、古墳時代中期後半(5世紀後半)～終末期(7世紀後半)にかけて、八尾市東部の生駒山西麓一帯に造られた横穴式石室を持つ群集墳で、「高安千塚<sup>たかやすせんづか</sup>」とも呼ばれています。柏原市の平尾山古墳群と共に日本有数の群集墳として知られています。

高安古墳群の古墳の総数は、大正12(1923)年の調査では640基、昭和47(1972)～48(1973)年の調査では324基、平成2(1990)年の調査では185基が確認されており、現時点では250基以上が市教育委員会の分布調査によって確認されています。



大窪29号墳調査地位置図 (S=1/5000)



大窪29号墳平面図 (S=1/100)

## 2) 調査概要

### 外部構造

同古墳は、横穴式石室を埋葬主体部に持つ古墳で、天井石や墳丘は認められませんでした。横穴式石室の外側(北～東)約1mのところには、石室を取り囲むように50cm以上の礫による「石列」が廻っていました。石室の東側、側壁、奥壁の石材と「石列」の間は、「裏込め」となっており、10～30cm前後の石と土が詰められています。

### 横穴式石室の規模

石室は、南西に開口する右片袖式で、全長10.1m以上(玄室長4.6m、玄室幅2.3m、羨道長5.5m以上、羨道幅1.4m)を測ります。玄室と羨道の床面には、敷石があり、玄門付近には大型の「仕切り石」があります。

### 出土遺物

石室内はすでに盗掘を受けていましたが、石棺(二上山産 凝灰岩)の破片の他、木棺に使用したと思われる釘・銚などが出土していることから、同古墳には複数の埋葬者があったと想定されます。土器は、古墳時代後期後半(6世紀後半)を中心とする須恵器(壺・杯身・高杯・はそう)などが出土しています。

### その他

江戸時代後期の国産陶磁器・キセル・銅銭(寛永通宝)などが出土しています。また、石室の石材の数箇所に石を割るための「矢穴」が見られ、石材が比較的細かく割り取られています。「矢穴」は江戸時代後半～明治時代頃のものと考えられ、その頃に(古墳の)石材が割り取られ、何かに再利用されたものと推定されます。また、昨年度実施の第1次調査では古墳南側の谷状地形を利用した近代の炭焼き窯が検出されています。

## 3) まとめ

高安古墳群の中で、埋没していた(=地表に痕跡の見られない)古墳を発掘調査した例は、今回の大窪29号墳を含めて数例です。昨年度に実施した第1次調査では、神立地区で芝塚2号墳が検出されましたが、調査範囲が狭く、羨道と玄室のごく一部を検出したにすぎませんでした。

今回の調査では、石室内部だけではなく、古墳の築造工程がわかる外部構造が明らかになりました。「石列」は墳丘の土留め、あるいは結界などの意味があるかもしれませんが、石を積み上げることによって、石室の石組み作業を容易にしたということも考えられます。

周辺には11基の古墳がありましたが、今は内部がみられないものや破壊されたものも多く、当地の古墳築造方法や時期を考えるうえで、同古墳は興味深いものです。

高安古墳群の古墳は、平安時代の終わりごろ(12世紀)・豊臣秀吉の大阪城築城のころ(16世紀)に相当数破壊されていますが、この古墳は江戸時代後半以降に石材が抜き取られるまでは、手付かずであったこともわかりました。

## 《横穴式石室の名称・構造》

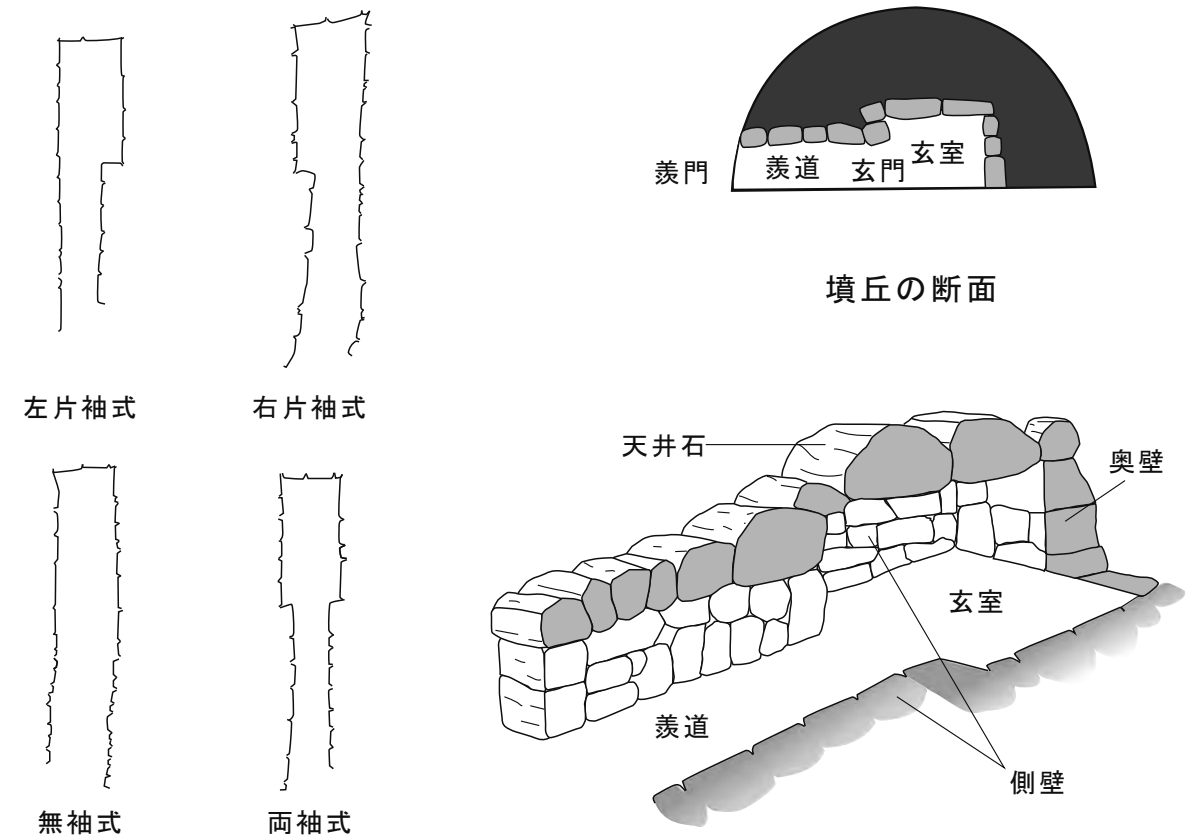
入り口が羨門、羨道が伸びて玄室へと続き、玄室の入り口が玄門です。羨門は埋葬が終われば石で塞ぎます。この石を閉塞石と呼びます。玄室が埋葬の主体部で「あの世」とすれば、羨道は「現世」と「あの世」をつなぐ「道」とも言えます。玄門も埋葬が終われば石などで塞ぐ例もあります。

本来は、玄室に一体葬ることが目的だったと思われませんが、高安古墳群の場合、玄室に二・三体葬られ、さらに羨道内にも数体葬られていることがあります。これらを追葬といい、とくに羨道の追葬を羨道内埋葬と呼んでいます。

石組に関しては、石室側面に並ぶ石を側壁、袖の角の石を袖石、奥の石を奥壁、上部の石を天井石と呼びます。底は床面、床面に敷かれた石を敷石と呼びます。

## 《横穴式石室の種類》

羨道から玄室が両側に広がる両袖式、片側に広がる片袖式、広がらない無袖式の3種類があります。このうち、片袖式には、右片袖式と左片袖式があります。大窪29号墳の石室を入り口から見ると、玄室は羨門から向かって左側に広がっていますが、左片袖式ではなく、右片袖式と呼んでいます。これは、入り口から見るのではなく、奥から見た呼び名となっています。高安古墳群では右片袖式が圧倒的に多いようです。



横穴式石室の種類

横穴式石室の名称